

年齢別調

第一表 年齢別調

年齢	少年期		青年期		成人期		合計	平均	標準差
	人数	年齢別人数	人数	年齢別人数	人数	年齢別人数			
14歳	1人								
15歳	39人								
16歳	160人	461							
17歳	261人								
18歳	439人								
19歳	694人								
20歳	829人								
21歳	747人	3,867							
22歳	560人								
23歳	379人								
24歳	217人								
合計	4,770人		8,107人		12,877人		20.8歳	4.77	100.00

青年期が壓倒的に多いこと 年齢別は女子生活の實情を参酌して、十七歳までを少年期、二十四歳までを青年期、二十五歳以上を成人期とした。表によつて見るに、青年期が壓倒的に多く調査人員の八一・〇%強を占め、次に少年期の九・六%強

成人期の九・三%の順序となり、少年期、成人期を合して僅かに一八・九%に過ぎない。青年期が壓倒的に多いことは、青年期の傾向が直ちに全體を代表する結果を來したが、少年期、成人期に於ても青年期を遠ざかるに従つて、人員が急激に減少してゐるのを見れば、これは必ずしも不自然な結果を來すものとは言へないであらう。青年期に於て最も多いのが二十歳以下二十一、十九、二十二歳の順である。最低は十四歳一人、最高は五十一歳一人、平均年齢は二〇・八歳である。

學歷別調

第二表 學歷別調

學歷	少年期	青年期	成人期	合計	百分比
尋常科	23	184	37	244	5.11
高等科	359	1,340	142	1,841	38.59
高等女學校	37	1,714	165	1,916	40.17
實科女學校	30	429	59	518	10.86
専門學校	1	64	26	90	1.90
無記入	12	136	13	161	3.37
合計	461	3,867	442	4,770	100.00

高等女學校卒業者が最も多いこと 少年期にあつては高等小學校卒業者が最も多いのは豫測せられる所であるが、青年期に於ては、高等女學校卒業者が最も多く、實科女學校卒業と合して二、一四三となり、青年期總數三、八六七に對し、五五・四%に當つて居る。成人期に於ても同じく半數を超へてゐる。全體として見ても高等女學校卒業が最も多く實科女學校と合

せて五一・一％に當つてゐる。不明は三・四％弱、右に現れた所には虚飾が全然ないとは保し難いが、大體實情を示すものと思はれる。

愛讀雜誌調

第三表 愛讀雜誌調

無記入	有記入	回答人数			合計	少年期	青年期	成人期	合計	少年期	青年期	成人期	合計
		少年期	青年期	成人期									
婦人俱樂部	二〇二	四〇	三三三	四三三	二五	一九	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
主婦之友	一四八	四二一	三、五六七	四、七七〇	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
婦人公論	一八	四二一	三、五六七	四、七七〇	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
キンク	九八	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
令女界	五六	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
若草界	二二	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
婦女界	三三	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
講談俱樂部	二五	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
文藝春秋	一一	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
富田	一五	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
少女俱樂部	五一	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
日の出	一八	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
婦人の友	一八	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五
合計	四〇	三三三	四、三三九	四、三三九	九	二八	六	四四	二五	一九	六	四四	二五

愛讀雜誌調に於ては、全部を通じ所謂婦人雑誌が壓倒的に讀まれてゐる。婦人俱樂部、主婦之友、婦人公論の順である。たゞ少年期に於て婦人公論の讀者が比較的に少いのを見る。今試みにこの三誌の延べ数の全體の雑誌延べ数に對する比率を見るに、六九二八に對す五〇七五、即ち七三％強に當つて居る。餘暇の少い職業婦人の讀書が主として雑誌によつて行はれしかも婦人雑誌が壓倒的に讀まれるとすれば、婦人の讀書傾向は之等婦人雑誌の傾向を見れば大體分るともいへる。これら三雑誌に次いで、少年期に少女向の雑誌が讀まれてゐるのを除いて、キンク、令女界、若草、婦女界、講談俱樂部、文藝春秋等の順であり、改造、中央公論は極めて少く、又一般に特殊雑誌は殆んど讀まれて居ないのである。尙ほ表に於て、回答人数、有記入、無記入数は人数を示し、其他の数は記入延べ数を擧げた。以下諸表に於ても同じ。

愛讀雜誌記事調

第六部門映畫・音楽・劇その他娛樂記事及び第五部門料理・裁縫その他實用記事が最も多いこと、表の示す如くであるが之を年齢別に見れば、青年期に於ては娛樂記事、實用記事、訪問記その他、文藝、美容服裝の順であり、少年期は娛樂記事訪問記其他、實用記事、美容服裝、文藝の順であり、成人期は實用記事、娛樂記事、訪問記其他、家庭經濟、文藝の順であつて、やゝ變化を示してゐる。文藝の少いのは、後に見るやうに希望書調に於て文藝が第一位を占め、且各雑誌共文藝欄に可成り力を入れてゐるのに對し、やゝ不審であるが、之は或は趣旨が徹底せず、爲に娛樂記事の類に屬するものとして解答したものがあつたによるかも知れない。

科學記事の少いこと 科學記事は各期を通じて最も少く、運星の下位にある。之は希望書調に於ても同様であり、婦人雑誌に科學記事の少いことを併せ考へれば、婦人に科學的興味を少いのを物語るものであらう。

一般に雑誌による讀書は雑誌の編輯によつて可成り制限せられるが、言ふまでもなく婦人雑誌はその販賣上、最も敏感に

第四表 愛讀雜誌記事調

無記入	有記入	回 答 人 數	少年期		青年期		成人期		計		百分比
			入	入	入	入	入	入	入	入	
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
論説、時事問題	文 藝	訪問記、告白記、實話	生理衛生	料理、裁縫、實用記事	映畫、音樂、劇、娛樂記事	科學記事	家庭經濟	美容、服裝	運送	星	
		三六	四六一	九七二	四四二	四二七	四七〇	一四八	六〇五		
		一一〇	三、八六七	一、六二〇	四二二	四二七	四、七七〇	一四八	一〇、四四		
		二四九	三、七五一	一、九五八	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		四八	三、八六七	七〇四	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		二四三	三、八六七	二、五二四	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		三三一	三、八六七	二、五七七	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		二六	三、八六七	四五六	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		五二	三、八六七	一二六〇	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		一三九	三、八六七	一六四一	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		
		一七	三、八六七	一六〇二	一一六	四二七	四、六二二	一四八	一三、一七		

婦人の興味を反映するものであるから、その限り又婦人の讀書興味は雜誌記事によつて示されるとも言へる。今試みに調査の當時讀まれてゐたと考へられる婦人雜誌、中でも最も讀者の多い婦人俱樂部、主婦之友、婦人公論の十月號につき、その記事を分類して、表を作れば次の如くである。

雜誌記事表

一 論説、時事問題	二 文 藝	三 訪問記、告白記、實話	四 生理、衛生記事	五 料理、裁縫其他實用記事	六 映畫、劇、音樂其他娛樂記事	七 科學に關する記事	八 家庭經濟に關する記事	九 美容、服裝に關する記事	十 運送に關する記事	婦人俱樂部	主婦之友	婦人公論	計
		一六八	八〇	二〇	二七	二五	八	二三	一	七頁	一〇九	一四五	四二二
		八〇	二〇	二七	二五	八	二三	一		一〇九	一四五	四二二	三、四
		二〇	二七	二五	八	二三	一			二七	一六三	四二二	三、四
		二七	二五	八	二三	一				一〇九	一四五	四二二	三、四
		二五	八	二三	一					二七	一六三	四二二	三、四
		八	二三	一						一〇九	一四五	四二二	三、四
		二三	一							二七	一六三	四二二	三、四
		一								一〇九	一四五	四二二	三、四
										二七	一六三	四二二	三、四

希望書調(その一)

分類について 希望書調の場合には、雜誌のみならず單行本をも含む關係上、分類法を變へたが、やはり婦人の讀書範圍程度を考慮して特別の分類法を行つた。

第七部門文學が最も多いこと 第七部門が最も多く調査人員四七七〇に對し三六六二即ち七六・七%は文學に興味を有することになる。第三部門も殆んど之に匹敵し七五・一%である。

之を年齢別に見れば、少年期、青年期を通じて第七、第三部門の順になり、成人期に於てはこの關係が逆になつてゐる。第六部門が年齢の高まるにつれ順位を高めて成人期に於て第三位を占めてゐると併せて見るべきであらう。

科學書に對する興味の少いこと 第九部門科學に對する興味はやはり全體を通じて少く第九位にある。

第五表 希望書調(その一)

有記入	無記入	回答人数		少年期	青年期	成人期	計	百分比
		有	無					
一 スポーツ、登山、旅行		461	3	185	1780	203	4,168	10.58
二 映畫、演劇、美術、音楽		458	29	301	2,399	245	2,945	14.37
三 家庭經濟、料理、裁縫、手藝、服装		458	29	310	2,916	358	3,584	17.49
四 植物栽培、動物飼育		458	29	21	288	67	376	1.83
五 政治、外交、法律、經濟、社會問題		458	29	59	924	125	1,108	5.46
六 修養、哲學、宗教		458	29	163	1,852	253	2,268	11.06
七 文學、小説、戯曲、詩歌		458	29	332	3,003	327	3,662	17.86
八 歴史、傳記		458	29	274	1,822	188	2,284	11.14
九 職業、社交、結婚、家庭等婦人問題		458	29	26	334	50	410	2.00
十 職業、社交、結婚、家庭等婦人問題		458	29	85	1,411	688	2,684	13.21

希望書調(その二)

これは希望書調(その一)を更に項を分つて見たものである。全體を通じて小説、手藝が最も多い。

第六表 希望書調(その二)

有記入	無記入	回答人数		少年期	青年期	成人期	計
		有	無				
(一) 登山		461	3	185	1780	203	4,168
(二) 旅行		458	29	301	2,399	245	2,945
(三) 映畫		458	29	310	2,916	358	3,584
(四) 演劇		458	29	21	288	67	376
(五) 美術		458	29	59	924	125	1,108
(六) 音樂		458	29	163	1,852	253	2,268
(七) 家庭經濟		458	29	332	3,003	327	3,662
(八) 料理		458	29	274	1,822	188	2,284
(九) 裁縫		458	29	26	334	50	410
(十) 手藝		458	29	85	1,411	688	2,684
(十一) 植物栽培		458	29	26	334	50	410
(十二) 動物飼育		458	29	85	1,411	688	2,684
(十三) 政治		458	29	59	924	125	1,108
(十四) 外交		458	29	163	1,852	253	2,268
(十五) 法律		458	29	332	3,003	327	3,662
(十六) 經濟		458	29	274	1,822	188	2,284
(十七) 社會問題		458	29	26	334	50	410
(十八) 修養		458	29	85	1,411	688	2,684
(十九) 哲學		458	29	163	1,852	253	2,268
(二十) 宗教		458	29	332	3,003	327	3,662
(二十一) 文學		458	29	274	1,822	188	2,284
(二十二) 小説		458	29	26	334	50	410
(二十三) 戯曲		458	29	85	1,411	688	2,684
(二十四) 詩歌		458	29	163	1,852	253	2,268
(二十五) 歴史		458	29	332	3,003	327	3,662
(二十六) 傳記		458	29	274	1,822	188	2,284
(二十七) 職業		458	29	26	334	50	410
(二十八) 社交		458	29	85	1,411	688	2,684
(二十九) 結婚		458	29	163	1,852	253	2,268
(三十) 家庭等婦人問題		458	29	332	3,003	327	3,662

部門別に見れば第一部門に於ては旅行に關するものが最も多く、第二部門に於ては映畫が多い。第三部門に於ては手藝、

裁縫・料理・服装・家庭經濟の順であるが、この第三部門を特に年齢別に見ると、少年期に於ては手藝・裁縫・料理、青年期に於ては料理・手藝・裁縫、成人期に於ては料理・裁縫・手藝の順位となり、又成人期に於ては家庭經濟が殆んど三者と匹敵する數に上つてゐる。第五部門に於ては社會問題、第六部門に於ては修養が最も多く、第七部門に於ては、全部を通じて小説・詩歌の順である。第十部門に於ては、少年期に於て職業が壓倒的に多く、成人期に於ても最も多いが、青年期に於ては、家庭婦人問題が最も多く社交、職業の順になつてゐる。

小説調

小説について特に觀察を下したのは、ひとつは、希望書調によつて實證された如く、婦人において小説が最大の興味を集めるといふ普遍的、恒常的事實の内容を具體的に明かならしめるためであり、いまひとつは、これによつてその興味傾向、範圍、程度を知るためである。

單行本、雑誌、新聞に分けたのは、これによつて同時に、讀書の仕方をも知らうとしたためである。

小説の分類について 小説・戯曲は普通の文學の範圍に屬するもの、通俗小説は大衆文學に屬するものうち現代を取扱つた小説、大衆小説は通常時代物と呼ばれるものを假にかく呼んで分けたのである。この分類については小説の内容、作者を考慮して判定した。

無記入の多いこと これはこの欄に解答を與へぬものが多かつたといふことを示すものではなく、一つ又は二つの項に記して、他の二つ又は一つの項を空白のままにして置いたものが多いことを示すのである。無記入の多いのは單行本、新聞、雑誌の順である。これは表面的に見れば、面白く讀まれるものが單行本に少く、雑誌に多いといふことに過ぎないが、これは同時に單行本の讀まれることが雑誌に比して遙かに少いことをも示すものである。

愛讀單行本小説調

第七表 愛讀單行本調

回答人数	少年期	青年期	成人期	合計	百分比
有記入	四六一	三八六七	四四二	四、七七〇	一〇〇・〇〇
無記入	一二〇	一、一七二	一一〇	一、四一二	二九・六一
小説・戯曲	三四一	二、六九五	三二二	三、三五八	七〇・三九
通俗小説	五四	六二一	七〇	七四五	五〇・三四
大衆小説	四三	三六二	三五	四四〇	二九・七三
探偵小説	三一	二一三	一八	二六二	一七・七〇
	三	二八	二	三三	二・二三

無記入の多いこと この項に解答しないものは七〇%に達してゐるが、このことは單行本として發行された小説の餘り讀れないことをも現してゐると考へるべきであらう。

小説・戯曲の多いこと 單行本ではさすがに小説、戯曲が多く全體の五〇%強に當つてゐる。讀まれる作品を挙げれば、漱石ものが最も多く虞美人草、坊ちゃん、我輩は猫である、草枕等が見え、紅葉の金色夜叉、一葉の竹くらべ、藤村の夜明け前なども多い。外國ものとしてはトルストイの復活、イブセンの人形の家などが讀まれてゐる。

通俗小説では菊地寛、佐藤紅緑、牧逸馬等の作品が多い。大衆小説では中里介山の大菩薩峠が多い。

愛讀雜誌小説調

第八表 愛讀雜誌小説調

回答人数	少年期		青年期		成人期		合計	百分比
	人数	期	人数	期	人数	期		
有記入	四六一		三八六七		四四二		四、七七〇	一〇〇・〇〇
無記入	三一七		二、二八五		二一八		二、八二〇	五九・一二
通俗小説	一四四		一、五八二		二二四		一、九五〇	四〇・八八
大衆小説	三二〇		二、〇九一		一九四		三、六〇五	九〇・七二
探偵小説	二九		二五七		三七		三二三	八・一二
	三		三九		四		四六	一・一六

雜誌の場合は無解答が四〇％で、雜誌掲載小説の愛讀者の多いことは、同時に小説の通讀が主として、雜誌によることを示すものである。

小説・戯曲のないことは讀まれる雜誌が主として婦人向一般雜誌で、この項目に該當する作品が殆んど掲載されないことから當然のことであらう。

通俗小説は最も多く、九〇％強に達し、各年齢を通じて壓倒的である。吉屋信子の女の友情、一つの貞操が最も多く、菊地寛、牧逸馬、久米正雄、加藤武雄のものが之に次いでゐる。

大衆小説は極めて少いが、直木三十五、子母澤寛、吉川英治等のものが見える。

愛讀新聞小説調

第九表 愛讀新聞小説調

回答人数	少年期		青年期		成人期		合計	百分比
	人数	期	人数	期	人数	期		
有記入	四六一		三八六七		四四二		四、七七〇	一〇〇・〇〇
無記入	一七一		一、三〇八		五三		一、五三二	三二・一二
通俗小説	二九〇		二、五五九		三八九		三、二三八	六七・八八
大衆小説	一一一		九九三		一四九		一、二五三	七三・六二
探偵小説	六〇		三五〇		三九		四四九	二六・三八

無記入は愛讀單行本小説の場合と略同じ數に達してゐるが、新聞小説はかなり一般向であるため、この種の婦人によつて特に愛讀されることが少い結果と見られる。

小説・戯曲・探偵小説は全くなし。

通俗小説では貞操問答(菊地寛)絹の泥靴(佐藤紅緑)三家庭(菊地寛)の順に最も多く、吉屋信子、牧逸馬、三上於菟吉、小島政二郎等のものが讀まれてゐる。

大衆小説では水戸黄門、赤穂義士(大佛次郎)丹下左膳(林不忘)大菩薩峠が多い。

昭和十年三月二十八日印刷
昭和十年三月三十一日發行

編輯者 社団法人 日本圖書館協會調查部

發行者 社団法人 日本圖書館協會

印刷者 東京市神田區美土代町十一ノ七 德橋敏郎

印刷所 東京市神田區美土代町十一ノ七 夕カラ商會印刷部

東京市麴町區三年町文部省內

發行所 社団法人 日本圖書館協會

振替東京二四一八一番

圖書集成

PATENTED NO. 119016
CAT. NO. 853
"F - M"
PAMPHLET BINDERS
are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851 (菊倍)	30. cm.	x 22.5 cm.	x 1 cm.
852 (四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853 (菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854 (四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855 (特)	24. "	x 15. "	x 1 "

Special sizes are made to order
Library Supplies in All Kinds
F. MAMIYA & CO
OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

